

「うつつうしい」。この発言は横浜ベイスターズ売却問題で球団の引き受けを検討している企業のトップの言葉だそう。 「宣伝効果がある」というトップの発言に神奈川県知事が苦言を呈したことが発端だった。「企業の宣伝効果云々(うんぬん)ではなく、根底から球団を支える気持ちがあほしい」。これを受けての冒頭の発言である。プロスポーツの理想と現実。双方の言い分は今のところ、どちらも正論である。

赤字球団の引き受けに名乗りを上げた企業があるだけでもありがたいのかもしれない。しかし、宣伝効果

# SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



があるという理由だけで10年後の未来は描けているのだろうか。多くの球団が毎年数十億円の赤字であると言われるプロ野球において、数字だけでは割に合わないことの方が多い。むしろ数字以外の部分でメリツクラブの上層部と話をする機会があった。話題はいかにクラブが地域と連携して地域から求められるクラブになれるのか。文化活動や地域社会の問題解決、地域の活性化のために何ができるか。選手の社会貢献活動

うな内容が多く、社会貢献などの話をすると思えば、むような感じであった。今では地域密着がスポーツ界の常識となっていて、実際に日本のプロスポーツはまだまだ企業主導型であることは否めない。む

## トツプよ理想語れ

トを見いだせなければ、きつと支援は続かないだろう。今回の発言に「では宣伝効果がないと分かった時はどうするのか」と受け止めた人は多いはず。県知事もそう思ったに違いない。最近、あるプロスポーツ

をどうやったら増やせるか。こんな話に終始して、あつという間に2時間が経過した。それでもまだ足りないくらいだった。今まで上層部との話の多くは「優勝するには」「スポンサーを獲得するには」というよ

しろクラブの上層部こそ企業主導型論者が多い。なぜなら、そういった環境で日本のプロスポーツが成り立ってきたから仕方がない。今回こういった話が「役員室」でできたということは、少しづつではあるが、日本

スポーツ界に変化が表れてきた証拠だろう。言い換えれば、そういった理念や理想を持った世代がようやくクラブの上層部の地位に就くようになったともいえる。そう考えると、日本スポーツ界の未来も明るい。

理念や理想は組織を動かす上で一番重要なもの。それらを伝えていくのがトツプの仕事。だからこそトツプはそれらを自らの言葉で語る事ができなければならない。選手の育成も、トツプの育成も日本スポーツ界には必須なのである。

(REGISTA有責任事業組合代表)

|| 隔週土曜日掲載